

声優も「箱で推せ！」 – 声優ファンにおける推し声優コミュニティの検出 –

@kkobayashi

Abstract

個人ではないアイドルグループを応援する際に特徴的なのは「箱」の概念である。グループ内の個人を応援するだけでなく、「箱」と呼ばれるグループ全体あるいはグループ内ユニット単位で応援するという手段があり、それぞれ「単推し」「箱推し」として区別されている。本稿では、アイドルに限らず声優業界においても「箱推し」の概念が存在するかについて調査を行う。まずは事前に定義した「箱」において、それを考慮した mixi コミュニティ参加傾向が存在するかを調査する。また逆のアプローチとして、mixi ユーザーのコミュニティ参加状況をネットワーク化し、「箱」=「コミュニティ」の存在状況を考察する。

Keywords: 声優, 統計, R, mixi, ネットワーク

1. はじめに

2013年8月17日、「AKB48 2013 真夏のドームツアー～まだまだ、やらなきゃいけないことがある～」ナゴヤドーム公演2日目にて、SKE48 単独のコンサートを行うことが発表された。SKE48 単独のツアーとしては約2年半ぶり、さらに SKE48 フルメンバーでのツアーは約3年半ぶり、まさにファン待望の発表となった [1]。そのツアータイトルとして掲げられたのが”SKE 党決起集会。「箱で推せ！」”である [2]。

さて、そもそも「箱で推せ」とはどういう意味なのか。アイドル系文化圏における「推す」とは「応援する」あるいは「好きになる」と言うニュアンスの単語であることはアイドルに詳しくない層にも広く知られている。では「箱」とは何なのか。もちろん、ライブハウスを「箱」と呼ぶ文化も依然として存在している。しかしここでのニュアンスは趣が異なり、個人ではなくアイドルグループ全体あるいはグループ内ユニット・チームを指して「箱」と呼ばれている。例えば「SKE48 箱推し」と言った場合は、「SKE48 全体を応援している」という意味となり、特定のメンバー個人を応援する「単推し」と対になる用法として使用される。分かりやすい例えとしては、野球における「選手個人のファン」と「チームのファン」との違いに近い。

このようにアイドルファンの間では頻繁に使用される「箱推し」という単語だが、公式自らファンの間で使用されるスラングを用いることは非常に珍しく、大きなインパクトを与えるものであった。それはファンと運営との距離が近い AKB48 グループら

しい、そして SKE48 ファンの思いの強さがストレートに伝わるタイトルと言えよう。

SKE48 だけでなく、AKB48 グループ全体としても「箱推し」の潮流が強まっている。2013年11月10日には研究生を経由せず各チームが直接新メンバーを指名する「AKB48 グループドラフト会議」が開催され [3]、2014年からは「ベナントレース」と称して各チームの支持率を競い合う企画を行うことが発表された [4]。企画の是非については賛否両論あるもの、いずれにしても個人主義に傾きつつある AKB48¹ をチーム・グループ単位で盛り上げようとする意図が感じられる企画である。

一方、声優に関してはどうか。声優における「箱」とは所属事務所であり、あるいは担当作品やレコード会社、事務所などが企画したユニットである。しかし基本的に声優は個人事業主であり、所属事務所もアイドルと比べて流動的である。またユニット活動に関しても流動的であり、数年以上の長期間に渡って継続した活動を行う例は多くはない。

とはいえ、現状を考えると推すべき「箱」のようなものが存在しているのも事実である。ミュージックレインやスタイルキューブ、響などは事務所とユニットが密接に繋がっており、ラブライブ!(μ's) や THE IDOLM@STER と行った長期間の活動を続けるプロジェクトも存在している。そこで本稿では、主要な声優事務所あるいはユニットについて「箱推し」の度合いに関する調査を行う。また、各ファンにおける声優のフォロー活動をネットワーク分析し、「箱」の存在状況について考察する。

Email address: kobayashi01234@gmail.com (@kkobayashi)

¹敢えて「AKB48 グループ」とは言わない